

令和5年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書【2年目】

報告日 令和7年 11月11日

P T A名		静岡県立沼津特別支援学校 P T A				
学校	対 象	<input type="checkbox"/> 視覚障害	<input type="checkbox"/> 聴覚障害	<input checked="" type="checkbox"/> 知的障害	<input type="checkbox"/> 肢体不自由	<input type="checkbox"/> 病弱
	設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部	<input type="checkbox"/> 小学部	<input type="checkbox"/> 中学部	<input checked="" type="checkbox"/> 高等部	
	全校児童・生徒数	229				

1. 使用状況

寄贈物品名	タタラ機
使用学年及び人数	高等部作業学習 陶芸班(11人)
使用頻度	週3日(月・水・金)
使用状況	陶芸製品制作の一工程である“たたら”(粘土を薄く均一に平らに伸ばした状態をさします)を成形するために必要な機材で、“たたら”から成形して制作する平皿や深皿作りには欠かせない。皿の制作の工程では必ず使用している。
物品の使用による変化や効果	生徒がのし棒である程度の薄さまで伸ばした粘土を、タタラ機を通すことでさらに大きく、均一に仕上げ、精度の高いたたらを作ることができるため、製品の質と精度を向上させることができた。 また、新しく、ハンドルの動きなど各部の作動がスムーズで、力の弱い生徒でも確実に操作することができ、安定してたたらを成形することができる。
今後の活用の見通しや課題	質の良い陶芸製品を効率よく制作することができているため、通常の販売だけでなく、受注制作にも取り組めるようになった。生徒の自信や働く意欲の向上にも繋がっている。
その他希望や所感など	障害の程度に関わらず、陶芸班に所属する全生徒が使用でき、どの生徒も達成感を感じることができている、その積み重ねが自信に繋がっており、意欲的に作業学習に取り組んでいる。今後も大事に使用させていただきたい。

2. 活用の様子



ある程度平らに伸ばした粘土をタタラ機に通すことでさらに薄く均一なたたらを成形することができる



力の弱い生徒でも、大きなハンドルを回すことで、たたらを成形することができます。



タタラ機を通し、薄く均一に伸ばしたたたらをさらに成形し、丸皿や角皿に加工していきます



素焼き・釉薬がけ・本焼きを経て完成となります。